

I 研究主題及び副題

ふるさとへの愛と誇りをもつ児童生徒の育成 ～家庭や地域との連携を図り、共同実践に向けた具体的な取組を通して～

II 主題設定の理由

近年、児童生徒を取り巻く環境は、国際化や情報化・少子化等様々な面で大きな変化が続いており、年々厳しさが増している。国際的な経済危機も加担して、地方では就職先が見つからず、若者がふるさとを離れ、大都市及びその周辺地域に人口が集中し、過疎化や高齢化が進むという問題が生じている。

また、自然体験や社会体験の減少、地域の年中行事や子供会等の諸活動への不参加者の増加、人間関係の希薄化という教育的課題も山積し、学校教育や地域社会などの様々な場で児童生徒に意識して機会を与えていかなくてはならないという実態がある。

このような社会の中で、学校と地域が一体となって、ふるさとのよさや課題について学び、地域社会における自己の在り方や生き方を考えさせる教育の必要性が高まっている。

高鍋町には、秋月種茂や石井十次などの郷土の偉人、高鍋城（舞鶴城）跡、高鍋湿原などの貴重な文化財等がたくさん存在している。しかし、児童生徒がそれらを学ぶ機会が少なく、ふるさとへの愛着が薄いという実態を受け、一昨年「ふるさと学習」の研究に取り組んできた。単元導入時での地域素材の取り上げ方の工夫や効果的な体験活動を行ったことで、ふるさとへの興味・関心が着実に高まってきている。また、小・中学校各学年で学ぶべきテーマを設定し、年間指導計画に位置づけたことにより、それぞれが共通して、地域素材を系統的・発展的に指導することができるようになった。

しかし、町内の全職員が共同実践していけるような手立てや地域社会・家庭への啓発がまだ不十分であると見えてきた。

そこで本年度は、昨年度までの研究の課題も取り入れ、地域社会・家庭との連携も考慮に入れた具体的な取組を通して、ふるさとを愛し、誇りをもつ児童生徒を育てるとともに、ふるさととの関わりの中で自己の在り方や生き方を見つけさせることをねらいとして、本主題及び副題を設定した。

III 研究の目標

小・中学校において、高鍋町の地域素材を取り扱った具体的な取組に対する共同実践や地域社会・家庭との連携を図り、様々な体験の場の設定を行うことで、ふるさとへの興味・関心をさらに高め、ふるさとへの愛と誇りをもった児童生徒を育成する。

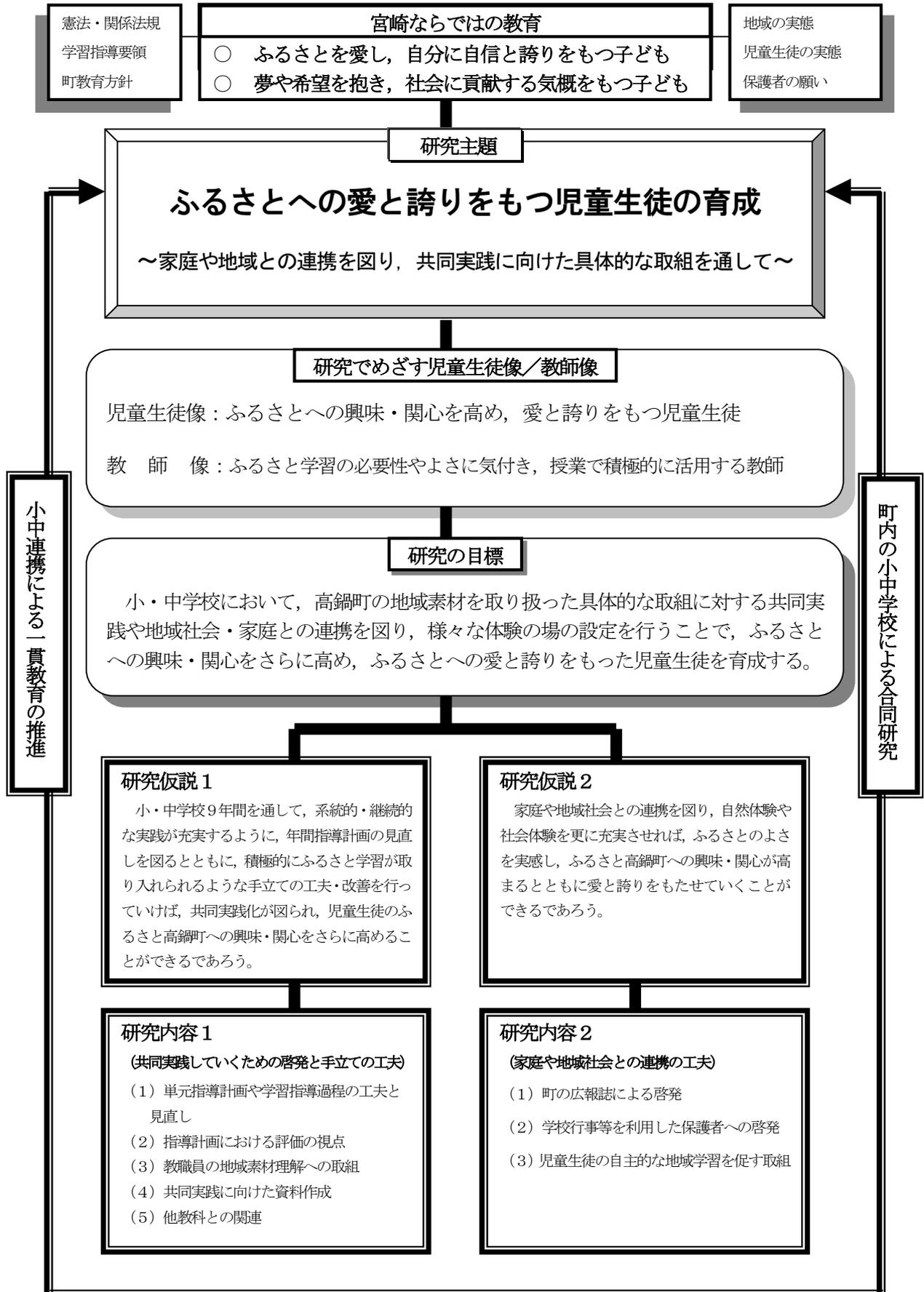
IV 研究仮説

- 1 小・中学校9年間を通して、系統的・継続的な実践が充実するように、年間指導計画の見直しを図るとともに、積極的にふるさと学習が取り入れられるような手立ての工夫・改善を行っていけば、共同実践化が図られ、児童生徒のふるさと高鍋町への興味・関心をさらに高めることができるであろう。
- 2 家庭や地域社会との連携を図り、自然体験や社会体験を更に充実させれば、ふるさとのよさを実感し、ふるさと高鍋町への興味・関心が高まるとともに愛と誇りをもたせていくことができるであろう。

V 研究内容

- 1 共同実践していくための啓発と手立ての工夫
 - (1) 単元指導計画や学習指導過程の工夫と見直し
 - (2) 指導計画における評価の視点
 - (3) 教職員の地域素材理解への取組
 - (4) 共同実践に向けた資料作成
 - (5) 他教科との関連
- 2 家庭や地域社会との連携の工夫
 - (1) 町の広報誌による啓発
 - (2) 学校行事等を利用した保護者への啓発
 - (3) 児童生徒の自主的な地域学習を促す取組

VI 研究の全体構想



Ⅶ 研究の実際

1 共同実践していくための啓発と手立ての工夫

(1) 単元指導計画や学習指導過程の工夫と見直し

本年度は、昨年度作成した単元指導計画をもとに高鍋町の各学校で見直しをしてもらい、より各学校に適した形での単元指導計画の作成を図った。しかし、各学校間や学年の実態に合わせて、修正しながら進めていく方がよいという意見も見られたため、共同実践していくために次のような視点で作成の見直しを図るようにした。

- ① 単元計画、学習指導過程を研究員それぞれの学校において、全学年で検討してもらう時間を設定する。その場合、各学校の実態や学年の実態に応じて、朱を入れたり作成し直したりしてもらう。
- ② 2学期以降に各学校で見直してもらったものを研究所で再度見直し、作成する。
- ③ 実践集が作成できるように実践で作成した資料やワークシート等を保管してもらうようにする。

そこで、次のように修正を加えながら単元指導計画を構成し直していった。

【本年度のふるさと学習単元指導計画（見直し済み）】

《小学校5年生》				《中学校3年生》			
時	学習内容及び学習活動	指導上の留意点	資料・準備	時	学習内容及び学習活動	指導上の留意点	資料・準備
第8次(1)	8 学習課題を設定する。 (1) 学習課題を設定する。 ・ 高鍋町の製菓について ・ 高鍋町のカキについて ・ 高鍋町の野菜作りについて ・ 高鍋町の畜産について ・ 高鍋町の産物作りについて (2) 課題別グループビンゴ	○ 課題を解決するために必要な計画を立てさせ、一人一人が見直しをもってできるように指導する。 ○ 主体的・意欲的な学習ができるように、児童の希望を優先したグループビンゴを行う。	ふるさとマップ	第6次(7)	まとめ活動 1/7 まとめ活動の流れを確認し、発信する地域素材の決定をする。 2/7 発信内容について検討する。 3/7 宮崎日日新聞の支局長をゲストティーチャーとして迎え、発信内容について検討する。 4/7・5/7・6/7 ふるさとマップのパネルとともに作品を掲示する準備を行う。 7/7 これまでの活動を振り返り、これからどのように生かしていくかを考える。	○ これまで学習してきたことを生かす活動を行う。 ○ これまでの学習内容を振り返るためにふるさとマップやインターネットを利用する。 ○ 気付いたことや考えたこと、反省等についてまとめさせる。 ○ 意見をしっかりとまとめ、堂々と発表できるように指導しておく。 ○ 聞く態度について確認しておく。 ○ 参観日のときにふるさとマップと生徒作品を掲示する。その際、できるだけたくさんの方の目に触れるようなところに掲示する。	原簿用紙・ふるさとマップ
第9次(2)	9 学習計画を立てる。 (1) 方法・手段 (2) 体験活動の依頼・実施 (3) 時間設定	○ グループの課題を立てた上で、細かい活動計画を立てるようにする。	学習計画表				
第10次(8)	10 課題別に調べ学習をする。	○ 学習計画をもとに、体験活動を入れたり、調べたりする。	人材バンク				
第11次(6)	11 グループごとに調べたことのPR活動をする。 (1) 発表・伝達の手順の決定 (2) 掲示資料の種類や提示の順序等の検討 (3) 資料作成作業 (4) 中間発表会 (5) 助言をもとに手直し作業 (6) PR活動	○ 発表の中で一番言いたいことを資料をもとに検討し、発表の主題に明確なイメージがもてるようにする。 ○ 友達を発表を聞いたり、意見を交換したりする場を設定する。	発表資料 付箋				
第12次(3)	12 高鍋町の特徴ある産業についてまとめる。 (1) 感想文作成 (2) 感想に対する意見交換会	○ これまでの学習を通して、体験したことを想起しながら、高鍋町に対する愛情を深められるようにする。 ○ 意見交換会を行うことにより、活動を振り返らせ、日常生活でも生かせるようにする。					

各学校の担当学年で見直してもらうことにより、より具体的で各学校に即した単元指導計画になった。また、ふるさと学習を実践しての教師のアンケート調査からも前向きな取組の意見が多数あり、高鍋町における「ふるさと学習」が定着してきたことが分かった。



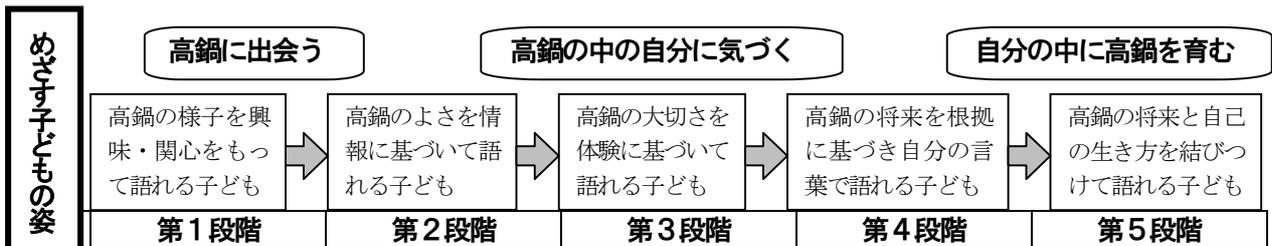
【学習対象のキャッチコピー化】

(2) 指導計画における評価の視点

ア 具体的な児童生徒像

ふるさとへの興味・関心を高め、愛と誇りをもつ児童生徒

イ 評価の視点



- ① 地域に対する関心・意欲・態度
- ② 地域に対する思考・判断
- ③ 地域に関する情報活用の技能・表現
- ④ 地域についての知識・理解

ウ 評価の実際

本年度研究授業を行った学級の児童生徒を対象に次のアンケートを行い、結果を考察した。

高鍋町についてのアンケート（事前）		高鍋町についてのアンケート（事後）	
質問1) あなたは高鍋町が好きですか？		質問1) 高鍋町の学習をして、どんなことが分かりましたか？	
項目	理由	項目	理由
好き		好き	
ふつう		ふつう	
好きではない		好きではない	
質問2) 高鍋町について、あなたはどんなことを知りたいですか？		質問2) あなたは今、高鍋町が好きですか？	
質問3) これから高鍋町がどのような町になってほしいか書いてください。			

【アンケートの概要】

☆ 小学校

「高鍋町を好きと答えた児童の割合」 58%（事前）→73%（事後）

（児童のアンケートから）

- 高鍋には思ったよりも、たくさん有名なものがあって、すてきな町だなと思った。
- 野菜や牛、茶や牡蠣など、いろんな分野の食べ物が採れて、とてもいい気候なんだなと思いました。
- トマトの栽培には、火山灰層という特別な土を使い、水はあまりやらないようにしている。
- 牛の名前は、オスが漢字をメスはひらがなを使って8文字以内で決めること。
- 黒木本店ならではのやり方で、「百年の孤独」が樽貯蔵されているのが心に残った。

☆ 中学校

「高鍋町を好きと答えた生徒の割合」 48%（事前）→81%（事後）

（生徒のアンケートから）

- 高鍋町にこんなものがあるのかと、改めて新発見がたくさんありました。情報発信のポイント等も実際に「宮崎日日新聞社」の方から教わり、すぐためになりました。
- この学習を通して、改めて自分たちの町について知ることができました。僕たちの班は、舞鶴城について調べ、いろいろな歴史があることを知ることができました。
- 高鍋町のことはたくさん知っているけど、それを情報として他の人に発信することは難しいなと思いました。

以上のように、ふるさと学習を通して、高鍋町に対する児童生徒の愛着や興味・関心の高まりがみられた。次年度以降はこの意識調査を町内小3～中3の全学級で行い、児童生徒の意識の変容を調査し、ふるさと学習のさらなる充実と指導法の改善・向上を目指したい。

(3) 教職員の地域素材理解への取組

本研究所では、児童生徒に「ふるさと高鍋」を知ってもらうためには、まず教師がその地域素材を使いこなさなければならないと考えた。そこで、本年度は夏季休業を使って、自らの目と耳と肌で「ふるさと高鍋」を知るためのフィールドワーク研修を各校ごとに実施した。

高鍋町内の小・中学校教員100余名中、7割を超える参加であった。右の写真は、高鍋西中学校で「高鍋大師」に訪れた時の写真である。各校とも町のマイクロバスを使い、社会教育課の職員の方やそれぞれの史跡や自然遺産の研究家の方の説明を受けながらの研修であった。



【夏季休業中のフィールドワーク研修】

研修の後、今回の研修についてのアンケートを実施した。その結果、特に多かった感想として、「初めてのところが多く、とても勉強になった。」「高鍋大師や古墳について詳しい説明が聞けてよかった。」「教師がふるさと（高鍋）のことを知っておく必要性を十分感じた。」などがあった。

よかった場所は、記入が多かった順に「持田古墳」「高鍋湿原」「高鍋大師」「黒水家住宅」「歴史資料館」であった。また、今後行きたい場所として「高鍋湿原」「蚊口浜」「石井十次記念館」「ウミガメの孵化場」などが挙げられた。

(4) 共同実践に向けた資料作成（デジタルコンテンツ化、地域素材資料集）

昨年度、主に総合的な学習の時間に活用することを念頭に置き、各学年の単元で活用できるように（自然・産業・歴史・偉人・その他）に区別して教師用と児童生徒用の「ふるさとマップ」を作成した。昨年度のものを基に見直しを図り、本年度、町内の全職員及び全児童へ配付することができた。

そこで、本年度は、このふるさとマップを生かして、授業での興味・関心の高まりを持たせられるようにデジタルコンテンツ化を行った。また、それにリンクした地域素材資料集を作成し、すぐに活用できるようにした。



【デジタルコンテンツ】（写真と動画）

ア デジタルコンテンツ化

高鍋町内の地域素材を自然・産業・歴史・偉人・その他に分類し各素材の写真と動画をDVDに収録した。昆虫の動く様子や建物内の様子などを動画として収録し、高鍋町内の全小中学校各学年1枚ずつ配付し、活用できるようにした。

イ 地域素材資料集

デジタルコンテンツにリンクした地域素材資料集を作成した。これには、デジタルコンテンツに収録されているものについての詳しい説明を記載した。デジタルコンテンツと同様に自然・産業・歴史・偉人・その他に分類し、実践の中ですぐに活用できるようにした。



小丸川

小丸川は、稚葉村の三方岳を源流として美郷町・東郷町・木城町・高鍋町を流れ、日向灘に注ぎ込む全長75kmの河川である。水力発電が盛んで、中流部には九州最大の水力発電所がある。また、河口部には貴重種のアカメをはじめたくさんの魚の稚魚や幼魚、えびやかきが生息している。ハマボウの自生地としてもよく知られている。ハマボウとは海岸に自生する植物で黄色いハイビスカスのような花を咲かせる。



大楠

舞鶴神社社殿右側にある樹齢500年の名木で、かつては八幡宮のご神木であった。平成19年8月2日、台風5号により南北に分かれた幹のうち南幹が折れ、大きな損傷を受けたが、平成20年3月にこの部分の治療を行い、現在は元気に葉を繁らせている。高さ約35m、根回り13mの巨木である。

【地域素材資料集】

(5) 他教科との関連

平成21年度の研究で、中学校の各教科における地域素材を活用した単元等を整理した。昨年度までに洗い出した小学校の地域素材一覧と合わせて、小・中学校全学年の地域素材との関連について整理することができた。次年度以降も適宜加除修正を行い、さらなる充実を図りたい。

	社会	理科	音楽	美術	保健体育	技術家庭	英語
第1学年	古墳 持田古墳 身近な地域 地形図	身の回りの生物 ハッチョウ トンボ	郷土の音楽 高鍋音頭	鑑賞 児島虎次郎	郷土の音楽 高鍋音頭		プログラム1~6 英文の中に 町名、偉人
第2学年	偉人 石井十次 秋月種茂						偉人 石井十次
第3学年	地方自治 高鍋町の 経済・政治 税金	大地は語る 宮崎層群					英作文 マイタウン
その他		自由研究 アカウミガメ 高鍋湿原	夏休み課題 地域の祭の 音楽	夏休み課題 読書感想画 河川愛護ポスター	舞鶴ロード レース	夏休み課題 郷土料理	英語弁論 英作文

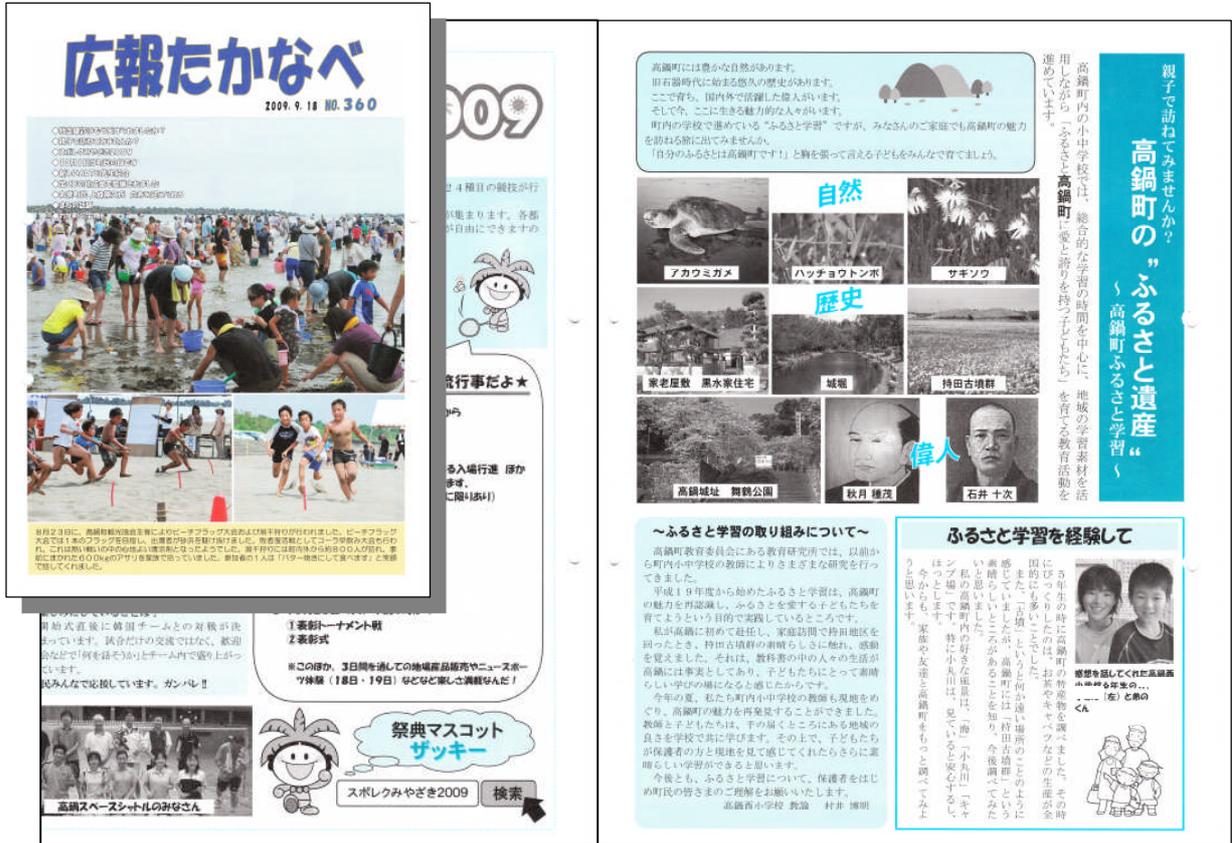
【中学校各教科における地域素材一覧】

2 家庭や地域社会との連携の工夫

(1) 町の広報誌による啓発

家庭や地域で自然体験や社会体験をすることは、地域のよさを身近に感じ取ったり家族や地域の人のつながりを深めたりする上で意義がある。

本年度は、夏季休業前に4校の児童生徒全員に「高鍋町ふるさとマップ」（平成20年度作成）を配付し、児童生徒が保護者とともに地域を巡ることを促した。さらに高鍋町の広報誌担当の方の協力を得て、町内4小中学校が共通して取り組む「ふるさと学習」について、その目指すところや小学生の感想などを紙面に載せ、広く町民に啓発することができた。



【高鍋町広報誌9月号掲載紙面】

(2) 学校行事等を利用した保護者への啓発

昨年度の研究では、自然体験や社会体験の充実を図るために社会見学や遠足等の学校行事等と関連づけたり米作りや福祉体験等の校内でできる体験活動と関連させたりして充実を図ってきた。しかし、移動時間や移動手段の確保等の様々な課題も残り、休日等を利用した家庭や地域での取組が必要となる。

そこで本年度は、家庭や地域へも自然体験や社会体験を啓発できるように参観日、文化祭、学校行事等で、多くの方に啓発できるように各学校持ち回りで活用出来るような掲示物を作成した。具体的には、A3判の地域素材パネルとA4判の説明が書かれた掲示資料である。感想シート等の記入をお願いし、次のような感想を得られた。

- ・「高鍋町にはこのような歴史や有名なものがあることが分かり嬉しくなった。ぜひ子どもと見学に行きたい。」
- ・「高鍋の歴史や文化の様子が分かりました。知らないところもあったので行ってみたいと思った。特に海ガメの産卵地に行ってみたい。」

これらの掲示物は保護者を対象に啓発を行う予定であったが、保護者以上に子どもたちの興味・関心をひき、興味深く見ていた姿が印象的であった。掲示する場所の確保や、保護者に対して興味・関心を呼び起こす啓発方法が今後の課題であると考えている。



高鍋大師

持田古墳の霊を供養するために開山した所。石像が750体程ある。ここは、市街地が一望できる絶景のポイントでもある。



【地域素材パネルと掲示の様子】

(3) 児童生徒の自主的な地域学習を促す取組

休業中は、児童生徒が観察や体験などの活動を通して、実践的に学ぶことができる良い機会である。地域の活動に参加したり地域素材のよさを実感したりすることができる。学校では、移動手段等やカリキュラム上の問題でなかなか体験できないことも休業中には体験することができる。そこで、夏季休業中に行う自由研究の事前学習で、研究例として高鍋町の自然について取り上げた。その際、高鍋町ふるさとマップ（自然・産業）を活用することにより、児童生徒の興味・関心が高まるようにした。事前学習は以下のことに留意しながら行った。



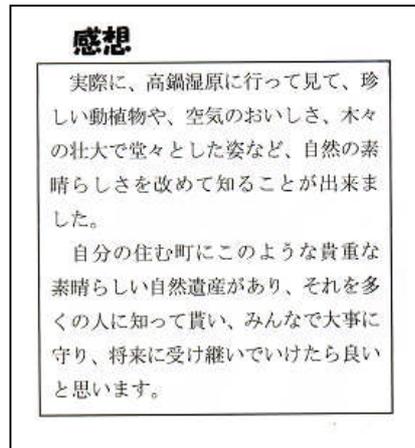
【ふるさとマップを活用した指導】

- ① ふるさとマップで場所を確認しながら説明を行う。
- ② 生徒の自由な研究を妨げないように、必要以上に説明をしない。

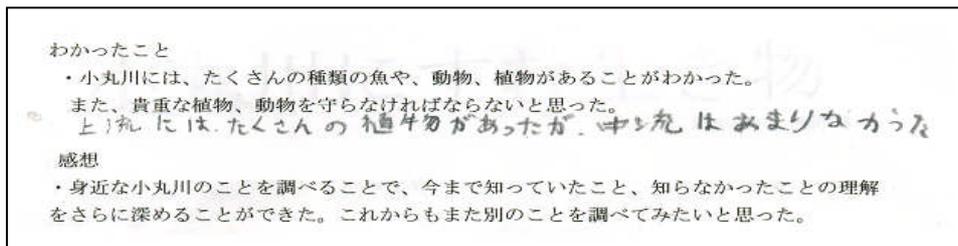
夏休み明けに自由研究を提出させたところ、5名が高鍋湿原について、1名が小丸川について研究していた。今回の研究の課題として、生徒の調べた内容のほとんどは高鍋湿原について調べたものだった。高鍋湿原以外の場所も調べてみたいと思うような支援をしていく必要がある。



【高鍋湿原についての自由研究】



【高鍋湿原を調べた生徒の感想】



【小丸川を調べた生徒の感想】

3 授業の実際

(1) 小学校における実践(5年「知っちょる!高鍋町!」)

ア 指導計画(全40時間)

時間	主な学習内容
(3)	1 田植え(米作り)を行う。
(1)	2 オリエンテーション
(2)	3 学習課題をたてる
(6) 本時 4/6	11 グループ調べたことのPR活動を行う ① 発表手段の検討 ② 掲示資料の種類や提示の順序等の検討 ③ 資料作成作業 ④ 中間発表会 ⑤ 手直し作業 ⑥ 発表会
(3)	12 活動を振り返る

イ 学習指導過程

段階	主な学習活動	○教師の支援 ★評価	準備物						
気付く 5分	1 本時の学習のねらいについて知る。 中間発表会で自分たちの発表を見直そう。	○ 本時では、中間発表会で自分たちの発表や友達の発表を見直すということを意識させる。 ○ 見直す視点としては「高鍋町の産業を分かりやすくPRできたか」ということに絞る。							
考える 15分	2 ポスターセッション形式で発表を行う。 ・発表の場 <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td style="text-align: center;">前半</td> <td style="text-align: center;">黒板</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">製茶</td> <td style="text-align: center;">野菜</td> <td style="text-align: center;">かき</td> </tr> </table>	前半	黒板		製茶	野菜	かき	○ 発表を聞く児童は、自分で聞きたいグループの所へ行く。 ○ 発表を聞いたら、驚いた事、もっと聞きたいことを付箋に書いて渡す。 ★ 分かりやすい発表をしているか。(観察) ★ 友達の発表をしっかりと聞き、質問やアドバイスをすることができているか。(観察)	発表資料 付箋
前半	黒板								
製茶	野菜	かき							

ウ 検証授業の考察

発表の中で、実物を用意して説明を行うグループや劇を途中で行いながら発表するグループもあり、真剣にその発表を見る児童の姿が見られた。また、児童の言葉でPR活動を行ったことで、その後、付箋に書かせる場面で多くの児童が産業について驚いたことを書くことができた。

PR活動の見直しの場面でも、その付箋に書かれた友達の意見や要望を参考にして自分たちの発表を見直すことができた。



【ポスターセッションの様子】

(2) 中学校における実践（3年「高鍋のよさを伝えよう！」）

ア 授業の流れ

「高鍋のよさを伝えよう！」という活動を通して、これまで学んできた高鍋町の魅力を再認識させ、情報発信の方法を考えさせて実際に発信させることにより、「表現する力＝調べた内容を基にして高鍋町のよさを工夫して発表することができる」、「実践する力＝高鍋町に対する誇りと愛着心を育て、郷土のよさを他へ紹介することができる」を身につけさせることができると考え、授業を行った。また、本授業では新聞社の支局長をゲスト・ティーチャーとして招き、情報発信のポイントを説明していただいた。

過程	学習内容及び学習活動	指導上の留意点	資料・準備
導入	1 これまでの学習内容を振り返る。 2 本時の学習内容を知る。 高鍋のよさを伝えよう！	○ これまでの学習内容を思い出しやすいように、ふるさとマップのパネルを使う。 ○ ふるさとマップのパネルと一緒に作品を掲示することを伝える。	ふるさとマップ
展開	3 新聞社支局長の話を聞く。 ・ 自己紹介 ・ 情報発信のポイント ・ 高鍋町への思い 4 ふるさとマップを使い、高鍋の魅力を発信する方法を考える ・ 発信内容の絞込み ・ キャッチコピー等の検討 ・ キャッチコピー等の製作意図 ・ キャッチコピーに込めた思いの検討 5 決まったことをプレゼンテーションする。 6 プレゼンテーション内容を振り返る。	○ どのように情報を発信すればこちらの思いが伝わるのか。情報を発信する上で注意しておかなければいけないことを考えさせる。 ○ 意見が出しやすいように各班で考えさせる。 ○ ゲスト・ティーチャーとともに、机間指導を行い、作業が進んでいない班には支援を行う。 ○ 他の班の発表を真剣に聞く雰囲気をつくる。 ○ 思いが伝わるキャッチコピーか評価する。 ○ ゲスト・ティーチャーにプレゼンテーションを評価していただく。	ワークシート 模造紙 ペン
まとめ	7 本時の学習内容を振り返る。	○ できたキャッチコピー等はふるさとマップと一緒に掲示することにも触れておく。	

イ 考察

- 授業を通して、高鍋町の魅力を再確認させることができた。
- ゲスト・ティーチャーの活用により、地域の人材の専門性を生かした深い学びをすることができ、生徒の意欲を高めることにつながった。
- 授業を通して、小学校～中学校でのふるさと学習のまとめを行うことができた。



【授業の様子】



【作成したキャッチコピーの展示】

(3) 検証授業の考察

地域素材に十分にふれさせる。→地域の魅力を深く知る。

- 地域の調べ活動を十分に行わせることによって、そのよさやすごさ、魅力などにたくさん触れることができ、児童生徒はさらに高鍋のことを深く見つめることができた。

情報の発信を取り入れる。→地域の理解をさらに深める。

- 学んだことを様々な方法で発信する活動を取り入れたことにより、ふるさと高鍋のよさを自分の視点からとらえ、しっかりと印象づけることができた。

調べた内容について交流を行う。→地域を見つめる視点を広げ深める。

- 自分自身が選択して調べた高鍋町の魅力を発表して交流する活動を取り入れることによって、ふるさとの魅力をとらえる視野が広がり、全体でふるさとのよさを認め合うことができた。

VIII 研究の成果と課題

1 研究の成果

- 各学校におけるふるさと学習が年間計画に従って一斉に進められるようになってきた。また、実践を通して得られた新たな情報や留意点などが見につき、来年度以降の実践につながる年間計画の見直しが図られた。
- ふるさと学習を行うために必要な提示資料やデジタルコンテンツなどの教材が全学校に整備され、実践の基盤整備が進められた。また、教職員に対する啓発が浸透し、各学校におけるふるさと学習の活性化につながった。
- 家庭や地域に向けて、町内4小中学校がふるさと学習を進めていることを広くアピールすることができ、長期休業などを生かして主体的に地域のことを調べる児童生徒が現れるなどの効果が見られた。

2 今後の課題

- 小学3年から中学3年までの7年間を見通し、どの段階でどんな目標を達成させていくべきかという明確な目標設定をし、指導方法のさらなる充実を図っていく必要がある。
- 年間計画がさらに各学校の実態に即したものになるように、計画の見直しや修正作業、1単位時間毎の計画を作成するなどの具体的な作業が必要である。
- 家庭や地域への啓発をさらに継続し、より一層のふるさと学習の推進を目指すとともに、児童生徒が「ふるさとへの愛と誇りをもつ」姿を発表する場を設けるなど、学習の成果について広くアピールできるような機会を設定したい。

【引用・参考文献】

宮崎の教育創造プラン『宮崎ならではの教育』	宮崎県教育委員会
『地域を生かせ！ 総合学習の展開』	東洋館出版社
『高鍋町歴史総合資料館要覧』他関係資料	高鍋町
『高鍋町 暮らしの便利帳』	高鍋町
広報たかなべ No.360 2009. 9.18	高鍋町役場
高鍋町の文化財第5集『高鍋の史跡』, 第8集『高鍋の先賢』	高鍋町教育委員会
平成20年度教育研究報告書	高鍋町教育研究所

【研究同人】

所長	萱嶋 稔			
研究指導員	武田 廣規			
研究員	恒松 秀明	黒木 雄治 (高鍋東小)	村井 博明	花車 秀樹 (高鍋西小)
	家村 誠	瀬戸口和昭 (高鍋東中)	石川 利英	矢野 秀平 (高鍋西中)